



門ル 4
編 1606
巻 2



洛陽名一册集卷之八目錄

岩屋
善持池
今宮
家野
蓮臺寺
柏森
沙室山
柏野
夜山

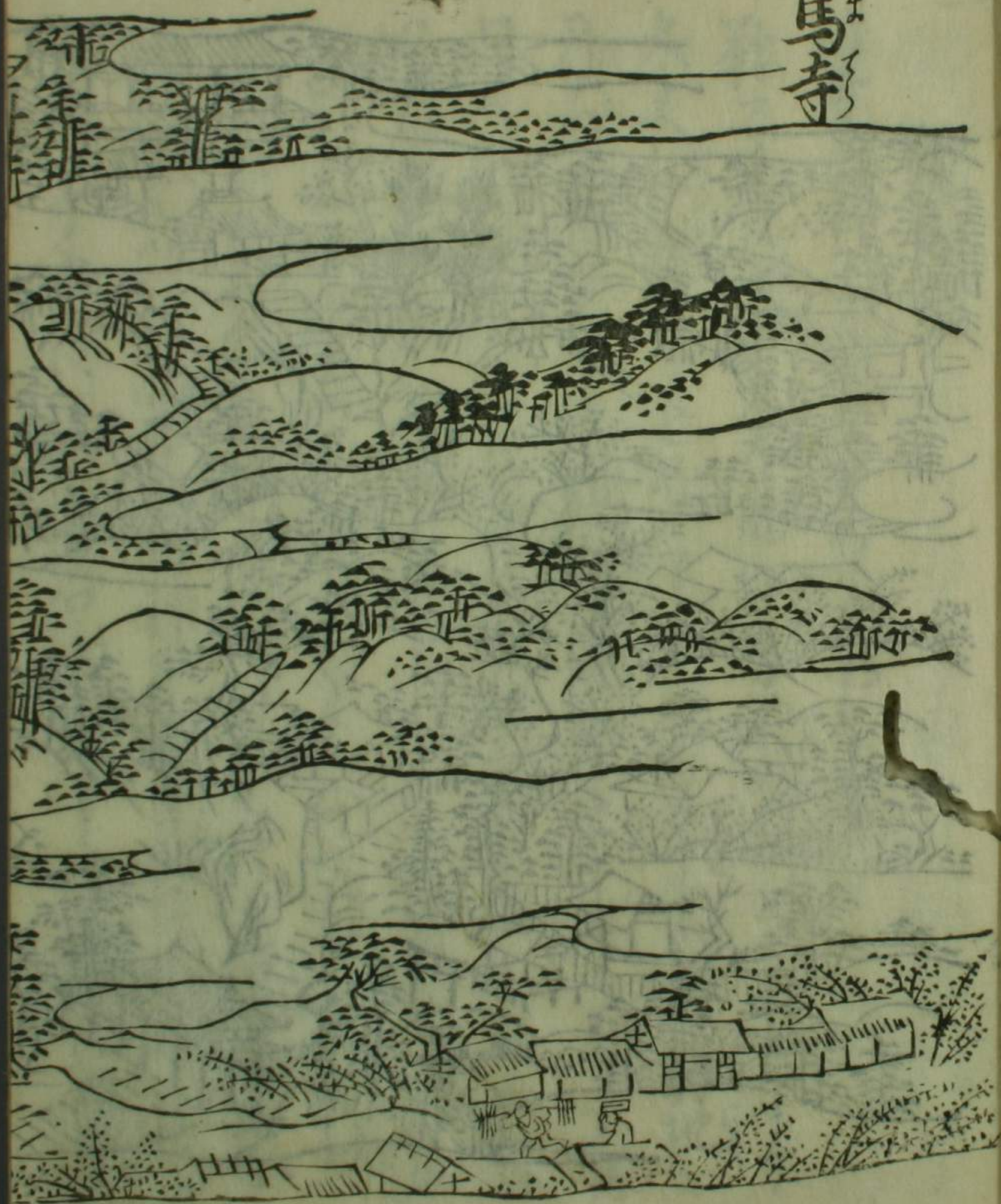
鞍馬
市惠
若狭河
大徳寺
間廣堂
平野
神野
明王院

二瀬
上野
舟巻
白雲院
鷹野
紙屋河
小野
六取宮

晴部山
貴布祿
扶野
蓮臺寺
頭野
岩野
三橋
藤花寺
天社



鞍馬寺



嶺はくろかりに乃がせはバの乃謝靈運の末後
 ちの齒つさけんをさよま少思まれくさきやうり
 西の畑とらふ所に茅屋なりわにけくおろしや
 しくもいさるのさきまや薪さる力の
 星つたれ生まく。月とあびるぬさま乃こ
 けりたぞ乃村より十町ごうりひぐらうこ
 まくつものみく。瀧たはほねのびさうり
 らをとしにいさぶらうくひくはるさきに
 びうらせ乃人れにたのむらうらうら
 のいさくは滝ようさせく。かこの力にら
 しくさん。いさうり



鞍馬寺

○ け寺は都より三里なり

靴了ちハ大申大夫藤伊勢人の剣をさふりたり
 大夫仙伝はくさめりてふりくしたる勝地と
 見らる場とさくく。観音像我安を連せんし我
 思く。延暦のる本町の夢に成れに
 けり。白砂のるるよ遠しよ。このる。大夫小
 告しハけ地天下にもくま心はと枯柿に似
 て常小色のをたふりか。ほも買區や。
 汝練る名は高せむ。神を号しなりしとぞ
 大夫多中にもるの名しひしに王城鎮守

鞍馬寺にいらぬ日とてふくきつて
燄をけらるゝ本を焚く数日乃わきま座ざ禪
しひるにをらるゝの女鬼おんなのまにきくあり火に向
いとく延のび起たく堂どうれうらたち朽く木き乃
中に入らぬ鬼おに逐お至と目めとつろく腐くさと
うごつろくゆぐさまらぬなりとて
延のび毗ひ舎しゃ門もんを念ねんでんに朽く木きづろ
傷やぶてこの鬼と打うちころすぬお聖せい日にち大だい中ちゆう大だい又
藤ふじ伊い豫よ人にん心しんに入い延のびづろせろくおんんい
かろ人にんらるゝにややしとつろくおんんい
かろ狂くるととるかろとて大だい又また延のびとわらぬ
寺てら主しゆ少せうとせつと又また之これ月げつ延のび護ご摩まをおんんい
とつろく大だい蛇だ目め電でんのおろく舌しよく火か乃なりとつろく
ろくおんんいいとつろく延のび又また毗ひ舎しゃ門もん
を呪のろと誦そをおんんいい蛇だ乃なりとつろく
とつろくおんんいいとつろく日にちのちた又
来てきておんんいいとつろくおんんいい
はらとておんんいいとつろくおんんいい
乃なり蛇だをおんんいいとつろくおんんいい
とつろくおんんいいとつろくおんんいい
中ちゆうにいらぬと
聖せい怡いハ伯はく初しよのおんんいいとつろくおんんいい

まらるび。後鞍馬寺にうけつゝそ乃らうふ
字とじしとび。一六六六人の孫院に像を
小豆のくぐりていぬらう。孫院号はな
ふ。十四年。けつらめ命期をころと沐
浴新衣し。あにじつひおつとぬ。こつた六
十六

正月寅日ける人へ
とろろるおろに上乃
けつらうふものには
人こふらうらうら

後撰集に

我一人も
亭まはの
うしはた
炭れ中
さくそ
いん
いん

○僧正谷 鞍馬寺乃西の

け下
異人
ふら

歎息とともおのつめら

世にけしこんでげん天狗とくまてん

かこらうまをくにく出現しりり

虫を旗星乃義よのびん僧正

巨魁として愛宕山の太郎比良心

次郎伊都奈れと郎富士乃ちる上野の

妙義坊常陸の筑波法下長山の豊

坊太山の伯考坊大峯れ善鬼金平六

比叡山の法性坊肥後の阿闍梨葛城れ

の者高回城ふる雄の内供奉如意嶽乃

天狗とつ子にといおん讚岐院を

金色の大鷲とるり志して七丈餘後

鳥羽院に被後長翼乃波門にるも後

醍醐院を二の鼻勾爪のまとるり之儲

の龍車に乗たにふくそをみお

い怪客異行を足ゆらんにとひく

くさうまかりたしあそく余い

さうまわりさくついで

暗部山

○けいハクくま心乃つて

紀貫之のよ梅乃花白ふまへくくら

かゝに越々やきくそまきる。在る元が
云のよ秋乃よのねまらあうーあのを終わ
くらふまらをらねんうらなま。いげと
も古今集にみく作たま。又新拾遺に積
式部らう海ままうたうなるんかうてま
けが録らうと海にらる物とらうてくれとせ
ぬまきれむいづうりけしむらるるま
まおとらう誰れめに拾うのそやう
ぬけらうらうらうらうらうらうらう

西善権

○い池は秋乃南まらうのうら射ける人

たあーとくび池のまをうらうらうらうらうらうらう
まらう。池のまうらうらうらうらう

布直

○いふらうらう池のふれまらう。小野高が讀と
中院准后親房古今序流。小野小町が事な合
仁吹天皇。美和のひ乃人出羽國郡司。女國色無双の
なりとらう。郡司右亮良家。小野高

二瀬

○いふらうらう池のふたうらう



貴布祢 貴船

○ け社ハ。鞍馬寺のふとくじり

○ 別宮ハ。け社乃うらうらにたりき

日本紀曰伊弉諾尊斬軒遇空智為三段其一
段為高麗下及神書抄云高麗與高麗同
龍神類也貴布祢亦是也

今雨とつりし白雲やせうにけけ社を
まけつと想賀之氏の社司新新白雲社
おろしたのうらをふらうりせけけけ
せまにかとせに上の神とよめりま
賀之氏の社司瀧身嘗とく百月めあ



ふふと山



大



今宮

○は宮を大徳寺に小なる也

○一条院正暦九年世に夜禱しやうはんが

しつやうくまをば山靈會を舟置山に修

せしめ給ひぬ。此のころ長保三年より

はつらつとあまらむとて。御輿社と稱く今宮

少早と。後拾遺小藤原長能のまうよ。白妙の

ことらみくくるとととあをらそとて。祀そ初らふ

け志の野に。今よりあはあつめらふ。今海よりと

か花の都小社はくめつとて。二首有か。か

疫癘のくまらふとて。くまらふとて。

系野

は野らゝの大徳なる乃海紀や

史本集よ徳無高弁に宮人乃カゾー

るはあしひまよい糸のやぐも又さうらふ

まゝ本歌よ明日ハ又その河波まゝの系

野しや多めは海の中

大徳寺

○は寺ハ今宮乃南之開山大師國師也龍寶心と号す

妙超姓ハ紀氏リ播磨播磨西少云おれ人也宗峯

少号と父母子なりさのんはひもすのりし書

心如意輪親育にのりし本母れ多に信

ありと系よひささうら白死と号しけし

らり姓めり妙超つてこの骨をびへ之眼をさ

こ云終りて一歳めく書寫山乃戒律律師に

け久徳を以て九流之流百家の異なり

究め未後をもろさすしと京都相摸につて

福を宿し冬向して後建長の大徳國師

十二月遷化しとく妙超ハ京下とて東山の雲居

寺と開居しけ本歌の寺と信之人と出世

乃事しひくはたなく系野と入仏願はたりし

下法堂よりわきまこやとて又洗心と云

法下。その外。儒者五人。一志。禪宗を破らん。と
朝廷に奏す。議論あり。くまなく。信儒者のく
理小なり。け。と。弟。子。を。か。わ。り。し。心。子。に。入。る。と。天。福。
大徳の言。又。と。云。電。閃。と。号。す。一。旦。花園帝。如。超
を。多。り。信。法。不。思。議。と。主。法。對。す。勅。を。け。い。せ。ば。如。超
奏。す。と。く。王。法。を。思。改。ら。し。法。を。守。せ。り。勅。を。せ。り。し。
より。後。後。醍。醐。天。皇。と。い。つ。り。室。思。ひ。つ。り。漸。く。辱
く。も。投。機。頑。固。震。動。に。わ。る。べ。し。又。西。朝。特。賜。興。福
大。灯。之。照。ふ。灯。圓。師。の。号。と。賜。り。し。念。於。教。不。以。け。る。心
の。一。よ。かり。ん。この。論。旨。は。あ。り。の。後。建。武。丁。丑。丁。一
月。末。乃。上。化。身。と。い。ふ。事。は。六。傷。臆。を。予。に。て。し。と。い。ふ。

舟思

○は系野のうらりうらりなま。弘法大師舟墓より
久墓所乃一つなり

玉葉集に舟思のともを燈のほのろのねん
てすうしをん人よぞんをさしつらとくありんか。
西の法師づらありく。あやうあやうあやう。
いよくくも。然。燈。の。あ。ら。う。く。し。の。の。の。の。
お。く。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
舟思のあやうに。くら。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
ふ。は。し。く。く。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。
ゆ。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。の。

いけとさくらとなまこにむく人こゝかぢり
世にけぬの敷くもいびくたうもう。又ハ正天とも
云来寺町をれくせんごうくもくもくもくもく
相國寺の林せん院くもくもくもくもくもく
余の解り次第なる朝臣はけのふもくもくもくもく
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
にほりつてさくもくもくもくもく

額野

○け野がけの野のほくもく

えのきんまきれきんまの本傍のくもくもくもくもく
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

柏森

○けおハじくもくもくもくもくもく

為家とそめに志あゆゆいふは家守なるくもくもくもくもく
久はちりくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

西三木院

○けお大徳ちれ門あたる村らり

漁道海これお乃橋はわらも。和泉或部くもくもくもくもく
はハははくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

○有。大虚菴体阿弥 白雲軒野間 光悦光悦 白雲軒野間 光悦光悦

山名陰

○けふは... 岩顔尾加... 或部は浦資業... 火を... 一... 少... 名...

氷室山

○け山長坂... 都乃良...

土御門元太臣... 氷室... 千載集... 仁徳天皇... 鶏... 迎... くてわ...

つしこゆつこに少あくを作りき。さうも
萩とらつこし。さうにまももさくといり。
少室はけいしんり好まらる

周禮に凌人也。水室也。鄴城旧事に氷井臺

と云ふ。魏志に建安十九年さうや魏王曹操

乃其を凌はくつさおとあさめく凌室し。

又氷井の号し。唐の上林令。氷井藏と

し。職司農よりせけり。

宋朝會要に建隆之年に氷井務はに

皇城司に請し。しり

氷井

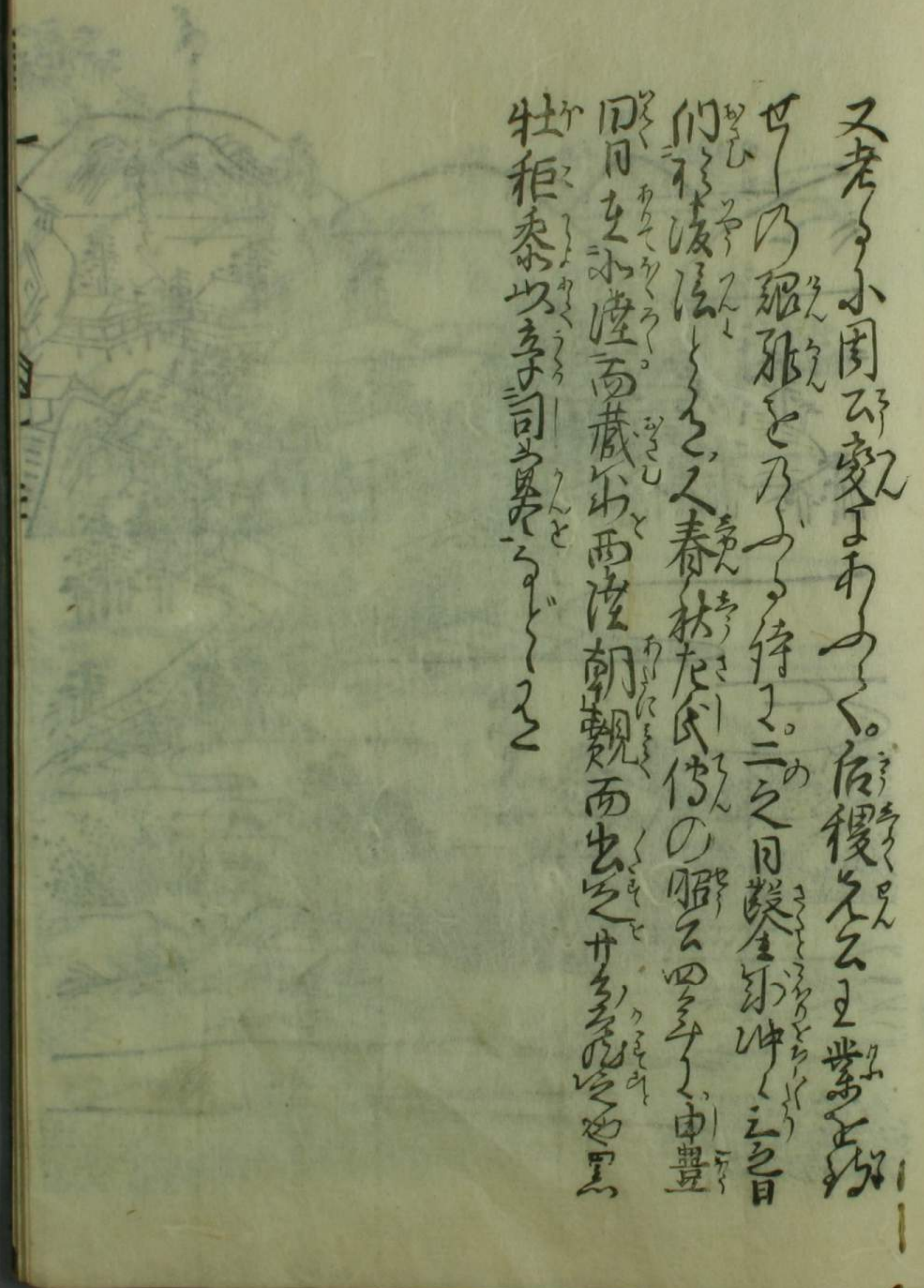
又考す小周の變しあつて。后稷を王業と

す。乃ち邪を乃ち待す。二之日穀生。乃ち

の法は。又春秋た氏傳の昭公四年。申豊

田を氷澁而蔵す。西漢朝觀而出。定甘

牡拒黍。以子司。是らる







平野

○けふハ。小野の西をさぐる也

久社神 第一合本神 日本武尊源氏神 第二

久度神 仲哀天皇平氏神 第三古用神 仁徳天皇

高橋氏神 第四比賣大神 天昭大神大江氏 第五

鞆神 天穗日命菅氏神 四姓 中原 清原 菅原

秋篠 已上才之。一社也。傳く八姓氏神

皇代御門乃親の祖よりして平野に社あり

子次々也 平野御所

延暦年中に平野にめぐりけ社之

貞觀元年十一月九日。初ら祭祀をさせり

家隆之云。邪波津よみとて。花のりや。午野のね。王仁の仁徳帝の御事。我佩して。邪波津に。乃こもつ。竹花抄。くはくく。くはくく。

○たはたの紙屋川

紙屋川

○け川也。水野乃西子野の東也

本ハ神谷川とて。世俗ハ。鏡石 紙屋川の。高橋 紙屋川の。

○鏡石 紙屋川の。高橋 紙屋川の。

高橋 紙屋川の。高橋 紙屋川の。

○高橋 紙屋川の。高橋 紙屋川の。

高橋

柳野

○け野ハ遺教經堂乃ううりたる。蔬菜とて人
梨餠のりぶのこりて付とぬ

○神明 小屋をうきうきなま。小屋うらな
いちろ村の内や

小山

○け西家敷おうくうらなむいり

鹿苑寺

○け寺を。小山衣笠ふりうらなむいり

撃氏將軍うりて代義滿將軍應永四年
この比氏のみく。廣平とてくむぐに
聖菩提取や。鹿苑寺とてくむいり
そのうら光瀨院殿義暉將軍をい舎牙け
もにむいり。侍老也や。むいり
ふぬにむいり。あさひ光瀨院殿一取
清あやむいり。むいり。むいり。むいり
乃裳屋とてむいり。次男つむいり。十四歳
むいり。むいり。むいり。むいり。

御あしらしもひらくくさるはぞろろのく。截殺
しけりあかきぞ。御あさ十八のくおはしき。
照山五堂ていざんごどうと贈号おくりなごうしゆらと也。今の位主たいしゅ三平
長老ハ勸修寺儀同晴豊くせんじぎよどうはるゆきの男なり。をを
おと太上天皇の濃信のうのぶうらうらめ啓あきらふま秋
院殿いんてんうへ入室にゅうしつはゆい院いんすれり。斑禪はんぜん全
院いんの袈裟けさ衣いはゆい院いんすれり。相國寺さうこくじ僧
乃入室にゅうしつはゆい院いんすれり。再興さいきようと
ついでに。とらうらもまをまをまをまを
子つとて。るまをまをまをまをまを

○世のなり。に金剛こんがう刺さとえゆりぬ。も
義満ぎまん將軍しやうぐんぶるははくく金剛こんがうのく一面
しゆらと也。因いんのふ。廣津ひろつしゆらと也。
その内うち九千人くせんにん海うみやたつげつと也。名なるるを
このかたつと也。いふと也。いふと也。いふと也。

衣笠いかさ

○けい。小こ山さんのあさり。衣笠いかさ大だい長ちやうと也。あ
あしき
侯こう古こ今いまい。音ねよとく。衣笠いかさ大だい長ちやうと也。あ
侍しやくに。あさるるれらあは。けい。あしき。あ
さあつと也。いふと也。いふと也。いふと也。

